2021 年度（第 7 期）

里山笑楽校活動報告書

１．活動の目的

里山笑楽校の目的は、都市と農村、上流域と下流域の交流によって経済と環境の両面において持続可能な地域モデルを創り上げる事である。山王寺棚田は、斐伊川水系の上流域に位置し簸川平野、宍道湖、中海の環境に影響を与えている。山王寺棚田をモデル地域として、下流域の都市住民に棚田保全活動に参加してもらう事で耕作放棄を減らし、地域に賑わい創りだす。そして、農薬・化学肥料を使わない農業を実施する事で宍道湖・中海の環境保全を目指す。後は難しいことを考えない。基本は「笑って・楽しく・学ぶ」ことである。

２．活動の実施状況

１）出雲國まこもプロジェクトを継続（持続可能な地域モデル）

本プロジェクトは「まこも」栽培と六次産業化を通じて以下の事を目指す。

①休耕田を活用して「人と自然が共生できる環境づくり」を目指す。

②「まこも」を通して「地域の賑わいを創る」を目指す。

③「まこも」によって経済的課題を解決

2021 年度は「マコモタケの収穫体験」は２回、「まこものしめ縄づくり体験」は３回実施した。

２）自然が共生できる環境づくり

7 月に 2 回目の「タガメの里親プロジェクト」を実施した。また、冒険の森「てんば」周辺の「野草を食べる会」を２回実施することで自然の豊かさを体験することが出来た。

① 経済的課題解決

2020 年度はコロナの関係でほとんどが中止せざるを得なかった。

実施できたイベント

野草を食べる会　2 回

タガメの里親プロジェクト　1 回

マコモタケの収穫体験　２回

しめ縄づくり体験　3 回